

東日本大震災と原発事故からの復興に向けた取り組みや国際交流・協力団体の活動、外国出身県民の声など、福島県の「今」を多言語にてお伝えしています。

※本紙の翻訳版は、当協会 HP からダウンロードできます。



東日本大震災から10年目に入り、福島県の復興は着実に進んでいる側面がある一方、いまだ途上の側面もあります。震災後に産出額が大きく減少した福島県の代表的な産業である農林水産業は、風評払拭を図るため、県産農林水産物の魅力や安全・安心に向けた取り組みが続けられています。観光業も福島県の「食、花、温泉」の魅力伝える企画など、観光誘客に向けて取り組んでいます。2011年5月に「がんばろう福島」のタイトルでスタートした「Fukushima NOW」は、今号から3回シリーズで福島県の復興と再生のあゆみについて特集します。



品質で勝負！福島県の日本酒

福島県を代表する県産品のひとつである日本酒ですが、震災によって酒蔵が被災したり、創業の地からの避難を余儀なくされた蔵元もありました。風評により、「福島県産」に対する消費者の不安が大きい中、蔵元が新酒の出来栄を競う全国新酒鑑評会で金賞受賞数日本一を積み重ねていることは、県産品の魅力の発信に貢献し、風評払拭の一翼を担っています。



令和元酒造年度全国新酒鑑評会では33銘柄が入賞（新型コロナウイルス感染症の影響により金賞酒の選定は行われず入賞酒のみの発表となりました）

全国新酒鑑評会7年連続金賞受賞数日本一の記録を更新した福島県産の日本酒は、今や県産品の風評払拭だけでなく、高い技術や品質をアピールすることで、県産品全体の販路拡大にも大きな期待が寄せられています。



福島県貿易促進協議会
ラングストーン・ヒルさん（米国出身）

2020年4月より、福島県貿易促進協議会で日本酒の海外PRを担当しているラングストーンさんにお話を伺いました。

Q 日本酒の魅力を教えてください。

温度帯ですね。日本酒は熱燗やぬる燗など、温度で味が変わるお酒です。フルーツを入れてカクテルにもなりますし、さまざまな楽しみ方があります。

Q 福島県の復興を進める上で日本酒が果たす役割は何だと思いますか？

酒蔵への誇りや努力（ふくしまプライド）が復興の原動力になっていると思います。

Q 福島県の日本酒がおいしい理由は？

福島県の日本酒は芳醇、淡麗、旨口が特徴。お米やお水がおいしいですし、人材育成にも取り組んでいるので“米がいい、水がいい、人がいい”からですね。

Q 福島県の日本酒をPRしてください。

全国新酒鑑評会で金賞受賞数7年連続日本一が示すとおり技術力はNo.1！今年の入賞酒は、福島駅西口の福島県観光物産館で開催している「入賞酒のみくらべ」で味わうことができます。日本酒には個性がありますので、好みの味を探してみてください。

Voices from Fukushima

環境と放射線について研究する エステyna・カテングザさん (マラウイ・ブランタイヤ出身・南相馬市在住)

エステyna・カテングザさんは東京大学大学院生として南相馬市の研究所で放射線の研究をしています。にぎやかな東京とは違い今は歩く機会が増え、ジョギングや歌を歌ったりと、自然豊かな南相馬市での生活を楽んでいます。南相馬市国際交流協会の会員であり、マラウイではセミプロのミュージシャンでもあるエステynaさんにお話を伺いました。

(ZOOM インタビュー日：2020年6月20日)



- 来日のきっかけは？

2018年4月に日本の文部科学省の奨学金を得て、環境放射能を研究するために来日しました。日本は放射線に関する歴史があり、特に2011年の東日本大震災を経験したので、とても興味深い国だと思いました。

- 東日本大震災はマラウイではどのように伝わっていましたか？

テレビのニュースで被害の映像が流れていました。私は何が起こったのかを知るためにさまざまな論文を読みました。

- 今の研究についてお聞かせ下さい。

マラウイの大学で環境科学について学び、イギリスの大学院で医学物理学を学んだ時に放射線について研究しました。その後、大学と大学院の勉強を結びつけるため、環境放射能の研究を始めました。東京大学の担当者から今の研究所を勧められ、水中で放射能を測定する研究をしています。放射線には悪いイメージを持っている人が多いと思いますが、健康診断のエックス検査や空港の手荷物検査など、医療や安全面ではとても重

要な役割を果たしています。

- 南相馬市での生活はいかがですか？

最初の1年は東京で、2019年4月から南相馬市で生活しています。マラウイの友人は「大丈夫なの?!」と驚きますが、私が生活していることで友人には福島県の正確な情報が伝わると思います。

- 将来について教えてください。

マラウイで原子力科学技術(利用、教育、研究)を促進したいです。日本でミュージックビデオも作りたいですね。

Scenes of Fukushima

第2回国際ボード・ゲーム大会(福島市)

福島市国際交流協会は、世界各国のボード・ゲームやトランプゲームをしながら外国語を楽しむ国際ボード・ゲーム大会を、7月12日(日)に福島まちなか交流施設「ふくふる」で開催しました。参加者は、日本では目にする機会が少ないドイツや韓国のゲームを楽しんでいました。



多言語による復興情報「ふくしま復興ステーション」

福島県の復興状況の最新データや食の安全・安心に向けた取り組み、福島を応援する方々の活動など10言語で発信しています。

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/>

- 外国人住民のための相談窓口 - 11か国語で対応しています

日本語・英語・中国語・韓国語・タガログ語・ポルトガル語・ベトナム語・タイ語、ネパール語・インドネシア語、スペイン語

毎週火曜日～土曜日 9:00～17:15

☎024-524-1316 ✉ask@worldvillage.org (相談専用)

発行者

(公財) 福島県国際交流協会

〒960-8103 福島県福島市舟場町 2-1 福島県庁舟場町分館 2階

☎ 024-524-1315 📠 024-521-8308

✉ info@worldvillage.org

🌐 <https://www.worldvillage.org>

Facebook <https://www.facebook.com/fiainfo>

Twitter https://twitter.com/fia_info

情報をお寄せください

みなさまからのご意見やご感想をお待ちしております。取り上げてもらいたい情報、Voices from Fukushimaにご登場いただける県在住外国人の情報もお気軽に寄せください。

